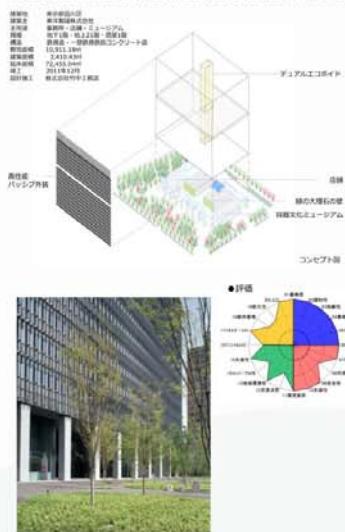


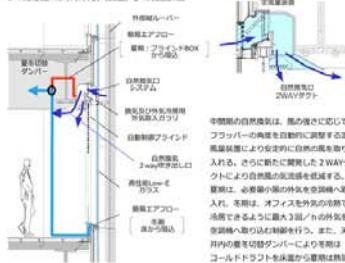
#### ランドスケープと一体化したハイライズによる都市の「再自然化」

大崎フォレストビルディング

都心地区的工場跡地再生プロジェクトとして、都市の「再自然化」を主題とし、高齢者外食、デュアルエコポイント、低層階へのウォーターチューブの導入等によりランドスケープと一緒にした次世代の超高層サスティナブルオフィスビルの創出を試みた。



●「高機能バッキーブ外装（西面）」の構成詳細



### 1. 自然と応答する「高性能パッシブ外装

計画通りと公設施に面した西側には大きな広場を取った建物構成から、西口駅前と挑戦的確保が採用となつた。入射角の低い直角的斜面は、内部からの窓を開き出す外壁部屋ルーバーステムと、季節によって異なる呼吸をする自然換気とエアピアノを融合した。自然と応和する「高能率バッファ外壁システム」を実現した。この外壁は日射遮蔽効果を最大限発揮するかに書き出された昇降式ルーバー・画面形状とカラス面をわざわざして取り付けたルーバーステムにより、見る視点や時間によって様子や表情を面部に表示する。

## 2. 「デュアルエコポイント」と「コミュニケーションゾーン」の連鎖

結果的にビリで最も長い時間掛かるバイスである上下2分割した「アフロ・ヨコバイス」を採用する間に拘り、安心した自然吸気、自然吸音を実現を叶めた。

ココ部へ基づく各種要素を用いて構成が一貫される「ハイブリッドダブル・ツイスト」を採用することで、空間、空間自由度を最大に、「アフロ工場」としての心にこもる打せサーコー・連続躍進、リフレッシュを求める一つの空虚感を実現する。

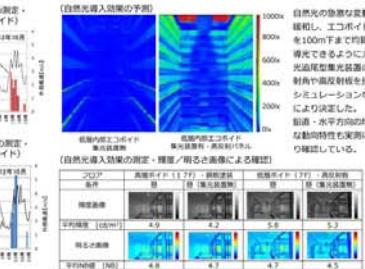
結果的にビリの先端中庸とは中間階層で「デュアルエコイド」の分子構造となり、低階層では「デュアルエコイド」による自然吸油機能をもつ。各部空中でカラスを流すを食堂とした「ミニエクスカーション」を形成する。

3. 由郭家明上尉拿去。九月三十日丙午，丁

3. 内部空間と結びたラントスクープ  
かつて山風の風景が広がっていた自然を復活することを目指す。経験的なランドスケープと内部空間を融合することを試みた。  
北側に城南丘陵の一つである鳴鹿山を眺め、起伏した地形が、遠くに位置する駿河湾や、近隣の駿河台地の低地の風景と対話を形成した。この丘の上の樹木の植栽は黒松を中心とした常緑樹化し、1階エントランスホールと連絡するアプローチ階段付近では、アカシアやイヌツバキを中心に高木が植えられた。外から内に通じる構造として、ラントスケープと内部空間がシームレスな繋合として山風と連携が受け合った一体的空間を創出した。



●100m下まで自然光を均等に導入する光の「デュアルエコポイド」デザインの性能



●ランドスケープと一体化した1階エントランスホールの性能検証

